



特定非営利活動法人

アジア・アフリカと共に歩む会

南アフリカ共和国貧困地域への教育支援

TAAAの活動日誌 2006年

- ・ 2006-9-10 [葉山BlueMoonチャリティー結果報告](#)
- ・ 2006-8-26 [「TAAA南アフリカ活動報告会」レポート2](#)
- ・ 2006-8-9 [「TAAA南アフリカ活動報告会」レポート1](#)
- ・ 2006-1-9 [講演とワークショップ「南アフリカの子どもたちに応えて」を開催](#)

2006年9月10日

葉山BlueMoonチャリティー結果報告

8月19日（土）に海の家「BlueMoon」で開催されましたチャリティーイベントを報告します。

「BlueMoon」は神奈川県葉山町の一色海岸にあり、竹をベースに組み上げられたシンプルで落ち着いた雰囲気の家です。鎌倉から程近く御用邸はすぐ目の前にあり、このような素晴らしいロケーションの中、「アフリカの子供達にサッカーボールを送ろう！」という趣旨に賛同し集まった音楽職人集団「JazzySport」、ファッションブランド「LUZ-e-SOMBRA」、「futsalcafe-KEL」の共同企画によりチャリティーイベントがおこなわれました。BlueMoonは、このようなチャリティーイベントを積極的に受け入れ、売上をタイのH I V孤児院へ寄付するブースを設けたりもしています。

チャリティーイベントは12時～ということでしたが、KELを始め他のメンバー達と8時頃から準備を進めました。TAAAとしてはアフリカの子供達の現状を伝えるべく、かつ海の家へ訪れたお客様へ押し付けでなくアピールするために竹の柱へ写真を展示することにしました。また会のパンフレット、10周年記念誌、会報、南アの小学生からのお礼のハガキ等を展示するブースも設けました。



店内の様子

お昼前から海岸には人が溢れ、BlueMoonにも活気がでてきます。昼から夕方にかけてほぼ満席状態が続き、さらに店の脇にフットサルができるスペースがあり、子供達に人気がありました。



フットサルで遊ぶスペース

日が暮れてくると店内に流れてくる音楽でより一層リラックスしたムードになり、そのような中でポツポツと会報やパンフレットを手に取るお客様がいました。19時頃、BlueMoonオーナーからチャリティーイベントの趣旨について店内でアナウンスして頂き、その後TAAから南アの現状や日本にいて協力出来る事についてマイクで話をできる機会を設けてくださいました。このマイクでのPR後にお客様のテーブル一つ一つに歩み寄り、「募金のご協力おねがいします」との一言をかけていったところ、皆さん好意的に寄付してくださいました。



TAAブース

おかげ様でチャリティー募金額は48896円となり、この金額は中古のサッカーボールでしたら500個程度、また英語の本に換算すると約4000冊分の輸送費・梱包費等と同等になります。

通常のTAA報告会では、南アの活動について知りたいという方が参加されます。ですがイベントがあることを知らずに来られた方々が大半で、海水浴に来て立ち寄った海の家でTAAの活動写真やパンフレットを思いもかけず目にします。それでもマイクを手に取り活動内容を話し始めると、だんだんと皆さん話に引き込まれていきます。今回の感触として報告会のような形でなくとも、さりげなく活動についてPRできる場があることも、ボランティアについて関心の無かった人達を振り向かせる良い機会だと感じました。今後も、このように他団体と連携してチャリティーイベントを開催できればと思います。最後に、会場として全面的に協力してくださいましたBlueMoonスタッフの皆様、またKELをはじめ企画に賛同して集まったメンバー全員、イベントにお招きくださり大変ありがとうございました。

関根

2006年8月26日

「TAAA南アフリカ活動報告会」の報告 アフリカ日本協議会・近藤徹子さん

6月26日（月）に行われた「TAAA南アフリカ・ダーバン駐在員／平林薫さんを囲む会～南ア映画に見る南アフリカの今～」のご報告です。

TAAA（アジア・アフリカと共に歩む会）の現地駐在員として、南アフリカのダーバンで活動をしている平林薫さんにお話をいただきました。参加者は19人（AJF・TAAA会員6名 非会員13名）で、丸幸ビル2階の共同会議室で行いました。参加者には、社会人の方も多く、皆さん熱心に耳を傾けられていました。

お話の内容ですが、今年のアカデミー賞外国語映画賞に輝いた「TSOTSI／ツォツィ」と昨年アカデミー外国語賞にノミネートされた「YESTERDAY」の紹介から始まり、平林さんの現地での体験やタウンシップの現実や人々が置かれている状況などを、ご自身が撮影された写真を交えながらお話をされました。実際に南アフリカで購入されたDVDを持ってきていただき、紹介していただきました。（日本未公開・DVD未発売／TSOTSIは、来年日本公開予定）

アンケートから学んだことや講師に対するメッセージが寄せられましたので、一部を紹介します。

- ・ANC（アフリカ民族会議）政権が、どんな政策をとっているのか興味を持った。（40代女性）
- ・表向きには人種差別は無くなったように見えても、実際には新たな格差を生んでいるということや、力を持つ者と持たない者との格差があると感じました。（20代女性）
- ・南アフリカの雇用問題の深刻さを痛感しました。（20代女性）
- ・国として経済発展をしても、国民一人一人が恩恵を受けられるものではないということがよく分かった。南アフリカの貧富の格差が良く分かった。（40代女性）
- ・現地に根付いて活動されていて、「南アフリカにこれからも一生住みたい」という言葉に心を打たれました。（30代男性）
- ・TSOTSIという映画の紹介を受けて、この映画の中に描かれている状況が、程度の差はあれ、南アフリカだけではなく、多くの発展途上国の都市で起きているんだらうなと感じました。農村での状況はもっとひどいのではないかと思います。この悪循環をとめていかなければと強く思いました。（10代女性）
- ・南アフリカのことが良く分かりました。社会構造や歴史についてもっと学びたいと思いました。最後の雇用問題に関しては非常に興味深いと思いました。（30代女性）

個人的にはアンケートからも分かりますが、南アフリカでの格差の増大、特に最近では黒人の中でも富裕層と貧困層ができており、黒人内部での格差が広がっているという話や、どうにか高校を卒業しても、驚くほど仕事がないという現実を強調されていた点が心に残りました。

特に雇用問題は非常に深刻で、犯罪は勿論やってはいけないことだが、そういう状況に追い込まれてしまう若者の気持ちや、生きていくために仕方なく犯罪の世界に追い込まれていく環境なども分かりやすく説明しておられました。4年後のワールドカップ開催についても、インフラ整備や治安の問題はどうするのか？本当に開催できるのか？というネガティブな意見のほうが大きいですが、そうはいってもアフリカの人はお祭り好きなので、本当はみんな楽しみにしているのでは、とのことでした。

今後も、この企画のように現地でプロジェクトを実施している他団体と連携して、講演会などが開催できればと思います。

アフリカ日本協議会 近藤

[▲トップへ](#)

2006年8月9日

「T A A A南アフリカ活動報告会」を開催

2006年7月5日18時30分より、NECソフト株式会社本社ビルN1101B会議室（東京都江東区）にて、「T A A A南アフリカ（以下南ア）活動報告会」を開催いたしました。講師については、従来どおり南ア事務所代表の平林薫が担当しましたが、今回はNECソフトとの共催ということで、さいたま市ではなく東京での開催となりました。会の前半では南アの状況やT A A Aの活動報告を中心に話が進み、後半では写真をスライド式に見ながらより詳細な説明がなされました。

南アは民主化から12年が経過しましたが、「人種によるピラミッド」から「経済力によるピラミッド」に移行しており、今なお楽観視できない状況が続いています。こうした経済格差は教育格差と密接につながっており、役人の汚職がこの悪循環を肥大化させているようです。

そのような中T A A Aは、ダーバンのNGO、E L E Tなどと協力し、日本から移動図書館車と英語の本を南アに送り続け、地道に教育支援活動を実施しています。現在、T A A Aが寄贈した移動図書館車は3つの州で8台稼動しており、その活動は政府の図書教育施策に組み込まれました。

T A A Aはこのほか、学校内での農業プロジェクトや、J I C Aの草の根協力支援金でH I V / A I D Sピア教育プロジェクトなどにも取り組んでいます。今回は手話通訳付きで、耳の不自由な方にも配慮したものとなりました。

また、会場脇には写真パネルや各種報告書の展示が行われ、会の始めと終わりには参加者が熱心に見入っていました。



報告会の様子

なお、ルイボスティとビーズで作られた手工芸品を販売したところ、無事完売しました。売上は合計13,800円となり、これらは南アでの支援に役立てられます。購入者の皆様、ありがとうございました。

文・丸岡

写真・NECソフト（株）提供

2006年1月9日

講演とワークショップ「南アフリカの子どもたちに応えて」を開催

2006年1月9日14時より、埼玉県労働会館3階第4会議室（さいたま市浦和区）にて、講演とワークショップ「南アフリカ（以下南ア）の子どもたちに応えて」を開催いたしました。講演については、南ア事務所 代表の平林薫を迎えて定期的を開催しておりますが、今回も前回好評だったワークショップを合わせて実施いたしました。

第1部の講演では、南アの状況、TAAAの取り組み、子どもたちや教師の反響、独立行政法人 国際協力機構（JICA）との共同事業（HIV/AIDSピア教育プロジェクト）を中心に話が進みました。すでに民主化して10年以上経つ南アですが、政治状況は前副大統領の汚職事件追求に終始し、経済状況は好景気でありながら一部の市民を潤すばかりで、貧富の差が益々拡大しています。そのような中、TAAAは学校図書室を準備している学校に本を寄贈したり、昨年12月31日には4台の移動図書館車を出航させたりと、地道に活動しています。また、HIV/AIDSピア教育は着実に推進され、意識が高まった学校では感染者が減少しています。さらに、TAAAがパートナーシップを組んでいる南アのNGO、ELETによる学校での農業プロジェクトでは、自給率改善・栄養改善など直接住民の利にかなったものとなっているようです。



ELETの学校菜園を多くの学校に広げて行きたい



キャベツやおいしそうなホウレン草は給食で使い、余った物は売ります。

第2部のワークショップでは、昨年放映されたNHKのビデオを参加者で鑑賞し、登場人物であるピウエちゃんの話を中心に課題の洗い出しと解決策を話し合いました。まず、参加者は3つのチームに分かれ、配られた付箋に思いつくまま課題と解決策を記述していきます。次にそれを分類し、各グループ内で討議します。その結果、「教育は大切だが、特に才能のある個人をどうやって見出すかが課題」「インフラが重要。まずは電気ではなく水の確保を」「学校菜園をきっかけにして、野菜の摂取で健康な体をつくろう」といった活発な意見が出ました。結論には至りませんでした。参加者同士のコミュニケーションを深めることができました。

次回の報告会は2006年7月開催を予定しています。ぜひお誘い合わせの上お出ください。そして、南アの子どもたちのため、引き続きTAAAへのご支援をよろしくお願いいたします。

文・丸岡

写真・平林

[▲トップへ](#)